

《学習会場での部落問題学習》

主題「私にとって学習会とは」 ～第1回全体学習を数日後にひかえて～

1993年5月10日（月）

授業者 森口 健司

T：最初にFさんが綴ってきた生活ノートを紹介します。このノートに込められた願いをみんなで考えたいと思います。

※

《今日4時間目は道徳の授業でした。「私は部落の人間だそうです。」と言った時、何か一瞬不安を感じました。変な目でみんなに見られへんかなあと思いました。けど給食の時間も、授業中も、休み時間も、掃除の時も、帰りもみんなの私への態度は変わらなかった。いつもと同じだったように思う。

やっと本音を言えた、語ることができた私は、今一つ峠を登り詰めたように思います。お母さんは差別を受けるのを怖れています。仲間はずれにされると思っています。みんなからの冷たい視線を受けるのを怖れています。私は怖れてなんかいない。どんな大きな壁にぶつかっても、絶対乗り越えてやる。自分だけだったら不安で仕方がないけど、仲間がいれば怖れるものは何もない。仲間が私を支えてくれる。私も他の仲間と一緒に仲間で支えていきたい。そんな人間関係をつくっていききたい。絆で結ばれるような仲間の一人になりたいと思います。

一瞬でも不安を感じたのは、仲間を信じずに疑ったからだと思います。今まで一緒に同和問題学習に取り組んできた仲間なのに、信頼しないでどうする。疑ってどうするんだと今になって思っています。

小学校の低学年の頃は学習会に行っていたと思います。でも小学校のある時期から、学習会に全く参加しなくなりました。でも私は本心で学習会に行きたかったんです。「Y子ちゃん、何で学習会いかんの」って友だちに何度も聞かれました。私は「お母さんが行かんでいいって言うけん」としか言いませんでした。

その時は学習会って何だろう。行ってない子もいるのに、どうしてあの子やだけがいきよんだろう。何で私は行かんのだろうとか、いろいろ疑問に思ったけど、いつからか思わなくなって、中学校に入って初めて部落という言葉を知りました。初めは関係ないと思っていました。今考えてみると大有りでした。だって私自身が部落の人間だったんですから……。

考えてみれば変な話ですね。部落差別って、何で勝手にそんなことされなあかんのと思います。差別しよるヤツみたら「アホちゃうか」と思います。お母さんが「差別されるけん行かんでいい」ということと自己差別を認めることになる。差別を何のためらいもなく許していることになると思います。そこが差別の不思議なところだと思います。勝手に植え付けられた考えをそこまで成長させてしまう人間の弱さ、自分の誇りが持てない弱さが差別を大きくしているんだと思います。私は思います。部落の人間だからといって恥ずかしがることは絶対はない。こそこそ隠す必要もない。森口先生のように堂々と生きればいいと思います。森口先生は私のお手本になってくれています。A先輩やM先輩もすごいです。私はA先輩やM先輩みたいになりたい。卑屈になんかななくていい。今までのようにこれからも堂々としていればいいと思う。

私のお母さんも差別はおかしいというちゃんとした考えは持っています。ただそこから成長していないだけだと思います。勉強すれば私たちみたいになれると思います。お母さんはこう言っていました。「部落の人間が差別をなくすように勉強したって、差別しよる人につたわらなあか

ん。部落の人間より差別する人がこういう勉強をせなあかん」って、私は少しおかしいと思いました。私は差別する人もされる人も一緒になって勉強する必要があると思います。

最後にお母さんはこう言いました。「やっぱりお母さんやは、Ｙ子ちゃんみたいに同和問題学習やしてないけん。考え方が違うかもしれんなあ」って……。初めは違っていても最後には一緒になる。一緒の考え方で差別のない世の中にしていきたい。もちろん私一人だけではどうすることもできない。たくさんの仲間がいて初めて達成できることだと思う。みんなで本音を語り合いたい。同和問題学習を通してわかり合いたいと本心から思います。》

※

T₂：今紹介したFさんの生活ノートについてみんなが思うことを語り合いたいと思います。どんなことからでもいい、遠慮はいらん。同じ思い、同じ立場で頑張っている仲間が集まっている。思うことを出し合ってほしい。

MT(女)私はあまり言葉にすることはできんけど、Fさんが3年A組という私たちを信じてくれたことが、ごっついうれしかった。今までFさんは寂しい思いやつらい思いをしてきたと思うけど、その気持ちを言うてくれたことが私はほんまにうれしかった。

MF(女)私もあの授業のとき、Fさんの発言を聞いたとき、3年A組の子を信じてくれとんやなあと思ったし、その本当の気持ちが言えるということがすごいと思う。

T₃：先生も、あんな発言が出てくるとは思いもよらんかった。Fさんはその意味において大きな峠を越えたと思う。だからあの後、友だちといろいろ話したことがものすごくうれしかったみたいです。例えばKさんのお姉ちゃんが、初めて3年B組というクラスで自分の心の底にあった部落出身というこだわりを語ったときもそうだったと思うんです。語り出すまでは私には本当の友だちはいないという不安があったり、このことを語ったら友だちがいなくなるという怖れがあった。でもKさんのお姉ちゃんはこのFさんと同じように本当の思いをぶつけたんです。そうしたらクラスが火になって、同じ立場の子や地区外の子が本当の思いをつないでいったんです。それが授業なんです。同和問題学習なんです。本当に思っていること、腹の底にあることをぶつけていくから、仲間の本心が聞けるようになるし仲間を燃え上がらせることができると思うんです。みんなの表現する力というのは、本当の思いを語ることからより豊かなものになっていくと思います。今から、第1回目の全体学習の資料としてみんなで考えていく『母に願い』という資料を読んでいます

《資料『母に願い』を読む。》

T₄：みんなはこの資料についてどんなことを思う。みんなの心の底にあるものをみんなで出し合いたいと思うんです。みんながつながるといふ喜びをつかみ合いたいと思います。今日は、教室の授業と同じようにみんなで挙手して発言していきましょう。みんなは先生が指名したらいくらでも思いを語っていくでしょう。今日はそのときそのときの思いを手を挙げてつなげていってください。みんなでみんなの熱いものをつなげていくような学習会にしていきたい。

MF(女)私のおばあちゃんも学習会に行ったら余計に差別されるようになって考えています……。

(涙)それで小学校のときに友だちのお母さんに「あの子と遊んだらいかん」と言われたりしたことがあって、そのときは何でそんなことを言われるのかと思っていただけ、逆らうこともできなかったし何も言えなくて、そのことは自然と遊ばないようになって、話もしなくなっただけ、私も私の気持ちが何にも言えなかったことが、今思ったらとてもつらいし……。 (涙) 自分の言いたいことも言えずに……。(涙)

MT(女)私のおばあちゃんやお父さんやお母さんは、別に学習会に行ったらあかんとは言わないけど、私自身が学習会について変なこだわりを持って逃げていたように思います。お父さんやおばあちゃんやお母さんは、私より強くて……、差別に負けないような考えを持っていて……、実際、家族の中で一番学習会をめんどくさいと考えて逃げていたのは私で……。

(涙)今、小学校に通っている妹二人が学習会にちゃんと行っているんだけど、これはまだ部落のこととか何も知らないで行っていると思うんです。でもこの二人が本当のことをいつか知って、この学習会にいつか行かないようになると思うと本当に悲しいし……、(涙)妹二人には、学習会に行き続けてほしいと思っています。なんだかんだ言っても私が家族の中で一番弱いと思います。

T : ちょっと口をはさむけど、Fさんもこの前の授業のとき涙をこぼしたのを覚えているかな。一生懸命、その涙をこらえてFさんは語ったんよ。この学習で本当に思っていることをぶつけていったら、最初はつらい場面が浮かんできて。つらい気持ちがかみ上げてくる。涙も出てくる。でもなあ、その涙というのは、やがて頑張っていく力になっていく。やがて涙は流れなくなっていく。その思いを胸にためて頑張っていくことができるようになる。そのために仲間がいる。そのために今語り合っているんだ。みんなの思いをつないで下さい。

MK(女)私もFちゃんとよく似ていて、小学校のときある子と遊んでいたら、私のおばあちゃんに「あの子と遊ばれん」とか、「あの子と遊んだら悪いことをするようになる」とか言われたことがあります。私はそのときおばあちゃんに何も言い返すことができなくて、私はおばあちゃんが言ったように、その子と遊ぶのをやめてしまいました。今思ったらそのときの自分がすごく腹が立って、何で言い返すことができなかったんだろうと思います。でも今は親とかおばあちゃんとかに、「あの子と遊んだらいかん」と言われたら、たぶん言い返すことができると思います。3年生になって勉強とかテストとかいっぱいあって、親が「学習会に行かれん」と言うけど、教科の勉強もみんなやっていくのが楽しいし、部落問題学習のときも、みんなに私の気持ちを聞いてほしいし、親が「行かれん」と言っても、私は「行く」として……。 (涙) この前の開講式のときも、「行かれん」と言われたけど、私は嘘を言って学習会にきました。今日は全部のメンバーが集まってないけど、Tさんもきてくれてすごうれしかったです。

RK(女)私は小学校のとき、「遊んだらいかん」とかは言われたことはないし、学習会も別に行っても行かんでもいいという感じだったけど、こんな部落問題学習のときは、お父さんの方がいつも、「そんなことは別に勉強とかに関係ないことだから行かんでいい」とか言って、この部落問題学習には反対なんです。それでお父さんと言ひ合いになって、「こんな学習はあかんの」と聞いてたら、「この学習をすることによって、みんなが部落を知るから、だからそのせいで差別が広がる可能性もあるんとかうか」と言っただけで、そのとき言い返したけど、そのときは自分も本音を語れていなかったような気がしていたけど、それでもずっと言い返してきました。みんなの家では学習会に参加することを親が反対している人もいるけど、私のところは別に私が行きたいということをやったら許してくれるから、行くことには何も言われないうちけど、みんなは親が反対してもきているからすごいと思います。

MM(女)私の家は学習会に行くんだったら「行てきな」と言ってくれるし、「行かれん」とは言われません。また、他の子と「遊んだらあかん」とも言われんし、学習会に来ることがとても楽しいし、私は親に何で学習会をしているのかとか、学習会で部落問題学習をしていることを話したことはないけど、話しても学習会に来ることには反対はしないと思います。

SK(男)僕は母さんに学習会に行くなと1回言われたときがあって、そのとき喧嘩になってその日は家に帰っても話をしないで、一人で部屋にこもっていました。でも僕は学習会にきてよかったと思っています。

T.: 学習会にきて本当によかったと思うときは、友だちの本当の気持ちを聞けたときだと思う。学習会の部落問題学習の意味とは、どんなことがあっても励まし支え合っていくことができる仲間の絆を作っていくことだと思う。人間は一人では生きていけない。でも涙を流しながら、本心を語り合った仲間がいたら、その仲間の存在を光にして頑張っていくことができる。でも思ってもいないことや差し障りのないことを言い合うだけの学習会や学校での同和問題学習だったら、差別はなくなっていかな。本当の思いを伝え合える仲間をどれだけ持っているかだと思う。さっき、Kさんが言ってくれた中にあったけど、「学習会があるから差別がなくなる」とか。「学校で同和教育をするから差別がなくなる」と思い込んでいる人って結構いるんです。そのことをしっかり考えてみたらすぐにわかることだけど、学校で同和教育をしなかった時代が何十年も続いたわけですよ。その頃は今みたいに地区と地区外の結婚というのはほとんどなかった。みんなのお父さんやお母さん、まだずっと上の年代になる先生のお父さんやお母さん、また、先生のおじいさんやおばあさんの年代になると、部落の人同志の結婚がほとんどだった。その時代の人たちはそれがあたりまえだと思っていた。また、差別されても仕方がないとあきらめていた人や、こんなところに生まれたから仕方がないと思い込まされていた人たちが大半だった。今みんながしている教育というのは、人間って何だろうかと考えて、人間ってとても大切なものであることに気付いて、そして、大切にし合い尊敬し合っていく。Fさんが尊いように、Kさんも尊い、Tさんも尊い。みんなが尊いということに気付いていく。そして、人間というのは尊敬し合い、大切にし合い、認め合うものだということをつかんでいく。そんな徹底した同和教育がなかなかされていないから、部落差別の苦しみを背負わされてきた部落の人たちの中から「そんな中途半端なことしてくれるな」という声が上がっていく。差別に対する怒りはみんな持っているよ。先生の中にも溢れる程ある。しかし、その思いに応える同和教育になっていない現実、表面を撫でるだけの教育でしかない口惜しさがKさんのお父さんのような思いにしまっているんです。1週間程前にY町に行って同和教育について話をしたんです。ちょうど学習会の開校式だったんですけど、その町の中学校は全校生徒500名ぐらいでその中で学習会の参加者はわずか14人なんです。その会場には中学校の先生と14名の学習会参加者とその生徒たちのお父さんやお母さんが集まっていました。私をその会場に呼んだ先生は、14名の生徒たちを励ましていく話を私がしていくと思ったと思います。でも私が一番怒りを込めて心の底から話したのは、Y中学校の先生に対してだったんです。「先生方はこの問題に関わって、この教育に関わってどんな苦しい思いをされていますか。先生方はどこまでこの問題と真剣に向き合おうとしていますか。この問題を自分自身の生き方、生きざまに関わる問題として、どこまで取り組もうとしていますか。わずか14人しかいない子どもたちの置かれている厳しい現実。そんな厳しい現実の中で揺れながらも頑張っている生徒たちをこの会場に集めて、先生たちが差別をなくす主体者になっていくから共に頑張っていこうと、先生自身の生活の中にある部落問題を語ってくれていますか。身体を張って差別をなくしていく生き方を14名の生徒たちにさらけ出していますか。そんな取り組みになっていかなければ、この学習会もY中学校における同和問題学習もみんな綺麗事になっていくと思うんです。Y中学校の先生にとって厳しい話だったかもわからんけど、先生はそんな話をしたんです。去年の3年生が実施し

た4回目の全体学習のとき、Y先生がお母さんと呼んできた。それはお母さんの中にある部落差別を当然とする意識を徹底的に洗いたいと考えたからなんです。人のことをとやかくいうのはとても楽です。でもこの同和問題の学習は自分自身を語っていかなければ何も始まらない。Y先生は自分自身の行動を通してその生き方を貫こうとしたと思うんです。先生がそこまで頑張るから、去年の3年生もあれだけ頑張れて、本心を語っていく全体学習になっていったと思うし、みんなの心に残っているだろうけど、A先輩の卒業式での答辞につながったと思うんです。今日はある意味でみんなにとって大きなスタートの日になると思います。自分の思いを語るということは、人間としてたくましく心豊かになっていくことだと思うんです。みんなに一つだけ発表するという意味についてある文章を紹介しておきます。3Aの男子の文章です。

※

《今日僕は自分が先生に嘘をついていることに気付いた。今まで僕は発表する言葉は、頭の中で考えてから発表してきた。でも、今日は挙手して発表するために立ち上がったとたんに頭の中が真っ白になった。何もわからなくなった。だけど、何も考えなくても言葉はどんどん出てくるんです。そして、段々身体が熱くなって、本当に腹が立って怒りというものがこみ上げてくるんです。先生が言っているのはこのことだとそのとき思いました。こんな気持ちにみんながなれると、本当に固い鎖のような一生離れない仲間ができると思います。いや絶対になれると確信します。だから、僕はそんな仲間を何人も見つけたいです。》

※

T：語るということはこういうことだと思う。変に頭で考えて格好つけようとするから、何も行動に起こせない人間になってしまう。人間として大切なことは主体的に行動することだと思う。みんなの主体的な行動で語り合っていこう。

RK(女)私は全体学習のとき、1年生のときとかは考えていることをずっと発表していて、2年生のときもクラスではしていたけど、学年全体とかでやるときに機会があってもなかなか手を挙げるのができませんでした。何回かした1年間の授業の中でも手を挙げて発表することはできなかったし、自分なりの考えを持っていても他の人にその気持ちを伝えることはできませんでした。みんなの前で手を挙げる勇気がなかったことが、自分を今一つ強くできない原因だと思います。2年生のときに3年生だった人が、3年の意見を聞くだけでなしに2年生の意見も聞きたいと言ったときも、言いたいことがあるのに手を挙げる勇気がありませんでした。でも、先生が言ってくれるようにいくら気持ちがあっても、その気持ちをみんなに伝えていかなければ、私の気持ちは広がっていかないし私の気持ちを確かめることはできないと思います。そして、先生が言うように本当につながるといえることはできないと思います。これからは発表をどんどんして、一番先に手を挙げるのできるくらい勇気を持っていきたいです。

T：絶対できるよ。今までの涙をじっくりと受け止めて発表するということ。それは部落差別と闘うということです。みんな、部落差別をなくしましょうというでしょう。また、差別をなくすために頑張らしましょうというでしょう。みんなが部落差別をなくす闘いというのは、手を挙げて本当の思いを語ることなんです。みんなの訴え、それはみんなの闘いです。先生たちは板野中学校の取り組みやこの学習会での取り組みを多くの学校へ多くの先生方へ伝えていきます。本当の同和教育をしていこうって……。言い逃れやごまかしのその場しのぎの同和教育ではない、教師自身の本音が語られ魂が込められていくような教育の営みをみんな

なで続けませんかって……。先生はみんなとの営みを生きる糧として訴えていくんです。みんなにはそんなすごい力があるんです。自分に誇りと自信をもって、みんなの本当の思いを仲間と共により熱いものにしていきましょう。さあみんなの思いつなげてください。

MT(女) 私はまだみんなの前でまだ部落出身ということを行ったことがないし、また友だちが部落出身と言っているのを聞いたことがないし、クラス全体の中でも聞いたことがない。自分は言いたいんだけど、やっぱり何かひっかかるものがあるって言うわんし、他の学習会場に行っている子も、私と同じように何かひっかかるものがあるって言えんのだと思うけど、自分が部落出身ということを経験した人にも打ち明けても、みんなは態度が変わらんと思うし、やっぱりこのことを友だちに伝えて本当の友だちをつくりたいし、みんなにも言ってほしい……。

T。： ありがとうございます。そのことについて話をします。何で言えないかわかりますか。部落差別があるからでしょう。何で言えるかという、それは部落差別がないからでしょう。この前、Fさんが語ったでしょう。Fさんの心の中にもう部落差別はないでしょう。部落というものに対する恐れやおびえがあるから、本当の思いが語れなくなる。例えば、みんなの先輩のクラスで、10名ぐらいの部落の先輩たちが次から次へと思いを語ったときがあったけど、それはどうして語れるかという、あのクラスの中には部落差別がなかったからですよ。だから一人一人の本当の思いが語っていくことができるんです。そのときそのクラスにいたある男子の生徒がこんなことを私に言った。「実は僕は先生から部落の人間ということを経験される前から、先生が部落の人だということを知っていました。先生が僕の家に家庭訪問に来る前に、お母さんが『森口先生は部落の人だよ』と言ったんです。それで先生が家庭訪問の時、先生がお母さんに部落問題について話した時、お母さんはすごく胸を打たれたみたいだったんです。でもお母さんは、部落問題についてわかったのではなくて、森口先生はすごい人というだけで、やっぱり部落について偏見を持っています。この前も部落の悪口をお母さんが言うから、僕がお母さんに『森口先生はこういうふうに頑張っている』と言ったら、お母さんは『森口先生は違う。森口先生は部落の人でもまた違う』というんです。せっかく先生が家庭訪問で話してくれたのに、結局あの時だけの感動だったんじゃないかなって思っすぎて腹が立ったんです。」そんなことを話してくれる生徒が、そのクラスにはいたんですけど、普通そんな話は私に遠慮してしないでいいですよ。でもその子は私を信じていたか部落問題に関わるすべてを私に話してくる。それでなおかつ私はその話をそのお母さんにするんです。そのことをお母さんに話すことは、本当の意味においてその生徒の信頼に応えることになると思うんです。その生徒の信頼に応えるということは、そのお母さんを部落差別をしない人に変えていくことだと思うんです。人間は徹底的に語り合っていくことが大切です。そしてそのことを通して変わっていくのが人間です。そのお母さんに「お母さん、部落差別をなくすということはどういうことですよ」と語る。私のすぐるような願いや生きざまを語ることを通して、何かをそのお母さんに与えていくことができると信じています。やがてそのお母さんから返ってくる言葉、「先生に教えてもらってよかった。話ができてよかった。」このことを語り合っていくことによって、人間は本当につながっていくことができるし、卒業の時まで、また卒業した後もずっとつながりができていくと思うんです。この学習を通して私たち自身が解放されたとき、部落という恐れやおびえは消えていって、胸張って自分の本心を語っていける生き方がそこに生まれていくと信じています。それは仲間を信じて自らの思いを語ることから生まれていく生き方です。みんなでそんな自分にしていくために語っていきましょう。

SK(男)僕は長い話をするのは苦手なんですけど、全体学習のとき、いつも昼寝をしていて、発表する時も僕は陸上部だから、陸上部の阿部先生に発表するように言われて発表することが多かったんです。だからこれからは自分から発表できるようになりたいです。

T₁₀: 言わないかんから発表するのではなくて、みんなに語りたいみんなに伝えたい思いがこみ上げてくるから発表するものなんですね。そんな自分になっていくように自分を変えていきましょう。

RK(女)私はみんなの前や友だちの前とかで、自分が部落出身というのは、今まで何回かあって、それは友だちを信じているというか。この子だったらという気持ちがあってそのことを言ったことがあったけど、まだクラスとか全体学習の場面ではそのことを話していません。部落出身であることを恥ずかしいと思う心はないけど、今まで言いませんでした。勇気を出したら言えたかもしれませんが、私はそのことを言おうとはしませんでした。それは友だちを信じてなかったということだと思ひ、それは発表とかそういう意見を言うことに対して、みんなが遠慮している関係だと思います。私は部落出身ということに恥ずかしいと思ひないし、部落問題学習とかでも涙を流したことはないし、本気で本音を言い合っていくことができると思ひ、自分の本当の気持ちを語っていくことを通して、友だちと遠慮のない関係をつくっていききたいです。

T₁₁: 授業というものはそういうものですよ。みんなの発言の後に先生が返すのではなくてみんなが思いを返していく。それが授業ですよ。Rさんが勇気を持ってその思いを語ったとき、すかさず誰かが手を挙げてその思いにつなげて発表してくれたとき、救われたような気持ちになる。もしその時みんなが黙り込んで全く反応がなかったら、発言した人の熱い思いは冷めていくんです。沈黙が一番恐いんです。応えてくれないということが一番口惜しいんです。仲間にそんな思いを絶対させない関係、それが人間を人間として大切にしていける関係だと思います。

MF(女)新しい学年になってすぐに参観授業で『峠』の授業をしたとき、私は手を挙げて発表することはできないと思っていたけど、授業の後半に手を挙げて発表できたんです。そのとき私の心はスカッとした感じでとても気持ちがよくて、とてもうれしい気分になりました。私はこれで3Aの仲間になれたんだと思いました。その後、Rさんがすぐ手を挙げて発表してくれて、とてもよかったと思いました。5月14日の第1回の全体学習でも自分から手を挙げて私の思いをみんなに伝えていきたいです。

T₁₂: 当てられて言うのと自分から手を挙げて発言するのでは、その気持ちは全然違うでしょう。

RK(女)みんなが今、発表した後に友だちがすかさず発表してくれてとてもうれしかったという言葉に私はすごく感動しました。自分の意見について友だちがどんな考えを持っているかとか、どんな思いで自分の意見を聞いているかとか、友だちの発言からわかったとき、その友だちと本当の仲間になれたという気持ちになると思います。私はずっと自分の意見についての友だちの意見を聞きたいと思っていました。けど去年は私が発言してもその後意見が続くことはなかったし、去年担任だった先生は、同和問題学習や道徳の学習というものを重視していなくて、ほとんどが自分の教科の時間となって消えていきました。そのためにみんなが意見を言い合う場面というのは全くなかったの、去年1年間、私は大切なものを見つめることはなかったように思ひます。でもまだまだ私が意見を言っても私の後に続いてくれる子は数える程しかいないだろうけど、そんな現実を恐れて行動に移せない生き方ではなくて、自分からどんどん心を開いていく生き方を勇気を持って続けていこうと思ひます。そのため

にも今度の第1回の全体学習は、自分にとって納得のいくものにしたいと思います。

T₁₃: 今2年生の担任の先生のことについて話をしてくれたけど、そのことで先生の気持ちを話すよ。みんなは1年後、高校へ行く。人間というのは弱いからすぐ人のせいにしたがるし、人の批判をしたがる。これは人間の弱さと思う。これからみんなはいろいろな状況の中を生きていく。例えば、先生にしたら、もう同和教育は特別に取り組みなくて結構ですよという学校に勤務することがあるかもしれない。また「この学校は同和地区がないから差し障りのない程度の取り組みでいい」とか「同和教育は同和地区のある学校で積極的にやったらいい」とかいう認識の校長先生がいる学校で勤務する時があるかもしれん。そんなときに今していることが本物であるという信念があったら、先生はどのような状況にあっても頑張り通すことができると思うんです。みんなもそうだと思う。板野中学校で取り組んでいる営みを高校へ行っても大切に頑張り抜くことができるかということをもみんなに聞きたい。高校や高校の先生方の批判で終わらずに、その中で自分の生命を輝かすことができる生き方をみんなに貰ってもらいたいと思う。これは高校だけの問題ではなくて、大学へ行っても社会に出ても同じことが言える。その道が険しかろうが自分を見失うことなく常に精一杯の生き方ができる人生であってほしいと思う。いつも思うことだけど、生きる基本は一生懸命なんだと思う。いかにみんなは一生懸命生きたか。一生懸命頑張っているか。そんな生き方ができていたら、決してくじけることがないし、投げやりになることもないと思う。実はこのことは私自身に言い聞かせていることなんです。

T (山口) 私も言っていていいですか。私はみんなが今日、涙ながらに言ってくれたことを聞きながら、私も一緒に泣いてしまったんです。何でみんながこんなつらい思いをせないかんのと思ったんです。この涙に応えていくために私たちは精一杯考えていかなあかん。差別をなくす教育をしていかなあかんと思っていろいろ考えたんです。私がさっき流した涙というのは、一体何だったんだろうか。いろいろな意見を聞きながら考えていたんですけど、それは結局、私の中にはまだみんなが中学3年で、まだ十何年しか生きていないのに、何でこんなつらい思いをして……、なんて言うか本当に厳しい差別とこれから闘っていかなあかん。なんて可哀相なんだろうって言うような、そういう何か第三者的な考えがあつての涙でなかったんだろうかとちょっと思います。本当に私はみんなと差別に向かって闘わないかんのやったら、一緒になって泣いたりしたらいけないと恥ずかしく思いました。同じように痛みを感じていかなあかんし、同じように苦しんでいかなあかん。ということは自分は涙を流していたのではあかんと思いました。吉成先生や森口先生のように本当の自分を語っていくことができるようになるか、不安な面がいっぱいあります。やっぱり心のどこかにみんなの前でいいかこうしたいとか、そういうのが心のどっかにあるような気がします。この1年はそういうふうに自分でも殻を打ち破って行って、みんなの前で本当の思いを語れるようにしていきたいと思っています。

SK(男) 去年僕のクラスが同和问题学習をするのが少なかったのは、始めの頃に発表する人がほとんどいなくて、先生がそのことがつらくて同和问题学習をしなかったと思うので、みんなで先生にやろうと言ったらよかったと思います。

T₁₄: 頑張ろうという思いがみんなの中にこみ上げてきたと思う。みんなには訴える力がある。自分の力を信じて頑張っていこう。

MM(女) 去年の私のクラスのことになるけど、去年の私のクラスは先生が積極的に同和问题学習をやってくれたけど、いつも数人の人が発表するだけで、発表するメンバーは決まっていて、

その人たちがみんなの意見を聞きたいと言っていたけど、みんなは余り答えられなかったし、担任の先生も一生懸命言っていたけど、みんなが答えることができなかったのが、今思ったら残念だったと思うし、今年B組になって、まだ同和問題学習はしていないけど、今のB組だったらRさんみたいに一生懸命になってくれる子もいるし、他にも一生懸命になってくれる子もいると思うので、私も含めて教室であまり発表できない子とも、励まし合って頑張りたいと思います。

MT(女)私は今までテニスの練習がとても大事で、1年の時に放課後にかかってまでクラスで同和問題学習をしたことがあって、そのとき私は早く部活動に行きたいと思っていて、早く終わらんかと思っているだけでした。でも今は全然違う気持ちで、今も6時過ぎから学習していたんだけど、もう8時前になっていて時間がすごく早かったなと思います。それで全体学習の話になるけど、全体学習では1年の時全然しゃべれなかったけど、2年生になってしゃべれるようになってきました。テニス部の先輩は、私たち後輩にとってとても自慢の先輩です。先輩はすごく優しくてすばらしい人ばかりです。その先輩たちが全体学習で発言してくれたとき、すごくうれしかったです。知っている人とか、従兄弟の子とか、親戚の子とかが発表してくれたらすごくうれしくて、自分も発表した時があったけど、今思ったら知っている人が発表したときだけうれしくて、そのことを考えたらまだまだ私は受け身で、自分が社会に出てもまだまだ弱い立場の人間のままだと思います。

T₁₅：今のTさんは今までのTさんとは違うよ。また今日成長したと思う。今日ここに来るまでは自分がこんなに話をするとは思ってなかっただろう。今日の帰り「今日必ず来いよ」と言われたTさんと、今のTさんは全然違うよ。変わるのが人間、成長するのが人間……。本当に頑張っているな。

RK(女)私は自分が部落出身であるとみんなに訴えても、絶対に涙は流さんと思うし、そんな涙は無駄な涙だと思うし、私たちは自分のことを語る時に涙が必要なのではなくて、本当に大切なのは自分の本当の言葉を語ることだと思うけど、1年の時の1学期だったら、口先だけの意見もあったと思うけど、1年の時にある先輩が放課後とかに話してくれたんだけど、そのときでも本当に真剣に自分の思いとか、部落問題学習とか学習会に対する自分の思いを語ってくれて、とてもその時うれしくて、その先輩が本当に部落差別に対して真剣に語ってくれたことが、とてもうれしくて感動しました。それから本当の思いを語ることができ出して、こういうきっかけがなかったら、私はこんな思いを語ることができなかったと思うから、私の友だちとかみんなの中でまだ本音を語ることができていない人は、私の発言がきっかけで語ることができるように私は頑張りたいです。

NK(女)さっき森口先生が先輩たちが、泣きながら思いを語ったということを聞いて信じれなかった、お姉ちゃんは森口先生のクラスだったので、全体学習のビデオが何本かあって、今もときどき家でビデオを見るんだけど、お姉ちゃんのクラスだった3年B組がすごくうらやましくて、それで自分もそんなクラスにしたいなあとと思っています。今は誰かが発表してもみんなが続いてくれないので、早く次から次へと意見がつながるクラスにしたいと思います。特に私はI先輩がとても好きで尊敬しています。自分でまとめた文章を読むのではなくて、自分の思いを繰り返し繰り返し語っていく姿にあこがれます。私も1回1回の全体学習を通して自分を鍛えて先輩に近づきたいです。

MT(女)私もKさんのお姉さんを知っていて、さっき先生が泣きながら自分の思いを語ったと聞いたとき、お姉さんも頑張ってきたんじゃないかなあと思ってすごくうれしかったです。

MF(女) 今度の全体学習、3Aが最初に公開授業をするんだけど、今の3Aってみんなすごく同和問題に寄せる思いを語ってくれて信頼できるというか。私は頑張れると思うし、今日みんなと語り合ったことを本当に意味のあるものにしていくためにも、今度の全体学習は自分に取って最高のものにしていききたいと思います。

MT(女) 私も3Aになって『峠』とかの授業をしていて、何かみんなが信頼できるというか。去年とかと授業が違うし、3Aでやったらみんなが一つになれると思うし、この前Tさんがトップバッターとして語ってくれたけど、その後すぐには続かなくて私もモジモジしてしまったけど、今考えたらあの時の自分って何をしていたんだろうと思うし、今度の全体学習ではみんなに続けるようにしたいです。

SK(男) 僕は何を言ったらいいかわからないという感じになって、こんなこと言ったらみんなに愛に思われると思ってきたし、全体学習の時も友だちと関係のない話をしたこともあったんです。そんな自分を変えていくためにも、自分から思うことを話していこうと思います。

T(山口) この前の学年通信の「きずな」を読んで自習ノートにびっしり自分の思いを書いてくれた子がいたんです。私はこんなすばらしい考えを持っている生徒がいるんだということに驚いたり感動したりして、学級通信に載せたいと言ったんです。そしたら「それだけはやめて」って言う。それを聞いたとき、やっぱりまだそんな問題があるんやなあとか、まだまだこの課題は大きいし、私たち3Cが何でも言える雰囲気でないっていうこと、そんなことを語ってくれる雰囲気ではないっていうことをひしひしと感じて、本当に代わって森口先生にこの授業をやっていただいて、そんな雰囲気にしてもらえたらなあって、逃げ腰で考えていたんですけど、私がやらなければいけないって今日のこの学習で思いました。

MM(女) 学習会にきている今の気持ちをずっと持っていたら、教室でも本音を語れると思うし、全体学習でも本音を語れると思います。今の気持ちをずっと忘れないように仲間の気持ちを大切にしたい。この気持ちはずっと続くと思う。

RK(女) 今日、学習会に来る前にお母さんに「今日、部落問題学習で頑張ろうと思うけん、たぶん8時より遅くなると思う」って言ってきたんだけど、本当に今日、本音が今まで以上に語れて、予想通りすばらしい時間になって、本当にいい授業だったと思います。みんなが本当に思っていることとかを語ってくれて本当にうれしいです。これからの同和問題学習や全体学習も私の本当の思いが語れたと言える学習にしていきたいです。

T₁₆： みんなにはみんなの思いを伝えることによって、仲間を大きく変えていく力がある。3Aのクラスが授業を公開する。後の授業、みんなで頑張れ。みんなの授業にしよう。これは私の授業だってみんなが言えるそんな授業にしよう。

T(吉成) 遅れてきた間に何があったのか全く見当がつかんですけど、みんなの思いを聞いていて、頭の中はからっぽという感じです。いっぱい言いたいことがあるんだけど、いろんな思いが交錯する。たぶんみんなも同じなんだろうけど……。去年のことが出てきたけど、去年がどういう取り組みであったかということは、それはしっかりととらえていかなあかん部分だと思う。みんなと同じように私も人間として存在している。これは先生だけでなく、きっとみんなのお父さんやお母さんであるとか、私のお父さんやお母さんであるとか、もっともって偉い人であるとか、社会的立場が偉い人であるとか、たぶん同じだと思う。みんなしんどいことはやっぱり避けようとする。当然人間だから、しんどいことをしようという思いが、いったい何だったのか、そのことを知らなければ、人間は頑張り切ることはいけないと思う。一昨年、板野中学校にかわってきて全体学習を知って、あのときみんなとは1年生

の担任として関わって私のクラスが全体学習をした。そのおかげで私自身が変わっていったと思う。あの授業はすごい峠だったと思う。先生としてではなくて、人間としてのすごい峠に差し掛かっていたと思う。去年先生のクラス3年E組が全体学習の公開授業をした時にある子が全体授業の時に「3Eがうらやましい。みんなが応えて発表してくれて、先生も一生懸命にやってくれてそれがうらやましい」っていうことが他のクラスの子から出た。内心うれしい。でも心にひっかかるものがあるよ。これでいいのかって……。そしたらその全体授業の進行をしていた森口先生が言ってくれた。うらやましがるのは誰でもできる。本当に大切なことは、その状況の中から自分がどれだけ頑張るかが問題になってくる。人をうらやむだけだったら、そこから何も生まれてこないし先には進まん。自分のクラスをよりよいものにしていくために自分はどうあるべきか。何をしなければならないか。そのことが問われているって……。私が教師になったばかりの頃は道德の時間が嫌いだった。何で嫌いだったかという答えがないから……。そして、自分はこの1時間で何を教えたらいいいのかということがはっきりと決まっていなかったから……。だからその頃、道德の時間は教科の授業に代えたり、テストに代えたり、学級の活動みたいなものに当てたりしてきた。それがどうして変わったのかわからないけど、今学級で大事にしていきたい授業は、道德や学活の時間というふうに変わってきた。この時間がしっかりと成立していかなんだら、学級は成り立たんというように思うようになった。どうしてそんなふうに変ったのかと考えてみると、自分自身肩肘張らんようになったからだと思う。自分は先生なんだ、なめられてたまるかというような意識が先に立って自分をさらけ出すことができないでいた。それが同じ立場でやっていかなあかんというふうに思い出した。道德や学活というのは上から先生が教えるということから変わっていった。みんなで考えていく時間なんだろうと思い出した。今日も道德の授業があったけど本当に楽しかった。手が重くてなかなか手が挙がらない。でも1回1回の授業を通して発言の数は段々と増えていく。それが道德の授業を積み上げていく喜びだと思う。語れたときの喜びは本当に大きなものがある。それは自分自身のため、自分自身の生き方のために闘っていることだと思う。世の中を堂々と胸張って生きていきたい。

T₁₇: そんな生き方を求めていくのが同和教育だと思う。先生たちにも学校での生活と地域社会での生活があり、家庭がある。先生たちにもその生き方が問われる。地域社会の中でどのように頑張っているかという教師自身の生き方がそこに出て来なければ、学校でいくら綺麗な言葉を吐いてもそれは嘘だと思う。本当に差別をなくす生き方というのは、家族と闘う部分もあるだろうし、地域社会で闘う部分もあるだろう。そんな生き方ができてこそ、その先生の訴えや問いかけは本物になっていくと思うし、人を変えていく説得力をもつことができると思う。時間が超過しています。まだ言いたいこといっぱいあるだろう。今の思いをみんなで全体学習のとき3年全体に広げていこう。みんなが頑張って本当によかったと言える授業をこれからもつくっていこう。授業というのはみんながつくっていくものです。最後に何かあったら話してくれますか。

RK(女) 今日、みんなの思いがいろいろ聞けたけど、一番最初にみんなが言ったように、みんなが語り出さなかったら、こういう充実した時間にはならなかったと思うんです。今日この会場でつかんだ思いを私たち一人一人のクラスに広めていくことができるようにみんなで頑張っていきたい。

T₁₈: この感動を全体学習につなげましょう。終わります。